【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成26年12月18日(2014.12.18)

【公表番号】特表2013-542959(P2013-542959A)
【公表日】平成25年11月28日(2013.11.28)
【年通号数】公開・登録公報2013-064
【出願番号】特願2013-537825(P2013-537825)
【国際特許分類】
Ａ０１Ｎ　35/06　(2006.01)
Ａ０１Ｎ　65/00　(2009.01)
Ａ０１Ｐ　21/00　(2006.01)
Ａ０１Ｎ　65/30　(2009.01)
Ａ０１Ｎ　25/00　(2006.01)
Ａ０１Ｃ　 1/08　(2006.01)
Ａ０１Ｇ　 7/06　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ０１Ｎ　35/06
Ａ０１Ｎ　65/00　Ａ
Ａ０１Ｐ　21/00
Ａ０１Ｎ　65/30
Ａ０１Ｎ　25/00　１０２
Ａ０１Ｃ　 1/08
Ａ０１Ｇ　 7/06　Ａ

【手続補正書】
【提出日】平成26年10月31日(2014.10.31)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
植物の成長を調節する方法であって、
１以上のアントラキノン誘導体を含む組成物にて、前記植物の成長を調節するのに有効な量で前記植物の１以上の根を、移植に先立って処理する工程と；前記植物を土壌に移植する工程と；を含み、
前記植物は、果実、野菜、樹木又はつる植物である、方法。
【請求項２】
前記組成物が、１以上の、前記果の根、前記野菜の根、前記樹木の根または前記つる植物の根に、細流かんがい、根ディップ又は畝間散布を介して施用される、請求項１に記載の方法。
【請求項３】
前記アントラキノン誘導体は植物由来である、請求項１又は２に記載の方法。
【請求項４】
前記アントラキノン誘導体は、タデ科、クロウメモドキ科、マメ科、ツルボラン科、およびアカネ科からなる群から選択されるいずれかの植物の科のメンバーに由来するものである、請求項３に記載の方法。
【請求項５】

前記アントラキノン誘導体がイタドリ種に由来する、請求項４に記載の方法。
【請求項６】
前記アントラキノン誘導体がオオイタドリに由来する、請求項４に記載の方法。
【請求項７】
前記組成物は植物抽出物であり、前記植物抽出物は前記アントラキノン誘導体を含む、請求項１～６のいずれかに記載の方法。
【請求項８】
植物の発根開始および根の伸長を調節する方法であって
前記植物が土壌中に移植されたときに、根の伸長を調節するのに有効な量で、１以上のアントラキノンを含む組成物により、前記植物の１以上の根を処理する工程と；
前記処理された植物を土壌中に移植する工程と：を含み、
前記組成物は植物抽出物であり、かつ前記植物抽出物は１以上の前記アントラキノン誘導体を含む、方法。
【請求項９】
前記抽出物は、タデ科に由来する、請求項８に記載の方法。
【請求項１０】
前記抽出物は、イタドリ種またはダイオウ属に由来するものである、請求項９に記載の方法。
【請求項１１】
前記抽出物は、オオイタドリに由来する、請求項９に記載の方法。
【請求項１２】
前記植物は、果実植物、花植物、観葉植物、樹木、潅木、球根植物、野菜、又はつる植物である、請求項８～１１のいずれかに記載の方法。
【請求項１３】
前記植物は、苺植物、カボチャ属植物、キュウリ植物、トマト植物、薔薇植物、コショウ植物、茄子植物、ブドウのつる植物、ワタの木、タマネギ、ニンニク、小麦、大豆、トウモロコシおよび稲植物である、請求項１２に記載の方法。